

アイビー米子教室 児童発達支援 支援プログラム

作成日 2025年4月1日

事業所理念		運動を通してカラダだけでなくココロの成長も促す					
支援方針		・器械体操(マット・鉄棒・跳び箱)による技の習得を通じた自己肯定感・自己効力感の獲得。 ・基礎トレーニングを通じての体幹機能や筋力低下、協調運動能力の促進。前庭覚・固有覚・触覚の感覚統合。 ・制作やクッキングによる微細運動能力の向上。 ・就学相談や教育相談、学校や園、病院との連携。					
営業時間		10 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	生活スキルの育成:日常生活に必要な自己管理スキルを身に付ける。来所から退所までの流れの中でのルーティンを確立し、日常生活への般化を促す。 ココロ:利用者自身の思いや願いを受け取り、発散することで心と体の調整を促進する。					
	運動・感覚	器械体操:技の習得を通じた自己肯定感や自己効力感の獲得。習得に向けて養われる体幹や筋力、協調運動能力の向上。 基礎トレーニング:前庭覚・固有覚・触覚の感覚統合。体幹機能や筋力、協調運動能力の促進。 微細運動:道具の使用を中心とした、器用さや集中力の獲得(クッキング、制作等)。					
	認知・行動	ワーキングメモリー:運動メニューを通じて、視覚的情報と聴覚的情報の保持時間を向上。					
	言語 コミュニケーション	集団活動:クッキングや制作を通じて、他者との関係づくりを促進。自分の意見と他者との意見の両方を受け入れ、折り合いをつける場面を設ける。 言語課題:運動を通じて、脳内の神経回路を発達させ発語を促す。活動中にも職員や他児との会話の機会を増やし、コミュニケーションを取ることのできる時間を作る。					
	人間関係 社会性	社会性:すべての活動を通じて、他者と関わり共に同じ時間を共有することで、社会性の獲得を目指す。 協調性・協働性:同学年に限らず異学年、他の学校の人物と時間を共にし、それぞれの課題に向かえる環境を整備する。 チャレンジ精神:運動での課題を中心に、苦手なことやできないことを前向きにとらえて活動できる時間を増やす。					
家族支援		就学相談や教育相談を適宜行っていきます。 定期的に保護者会等を開催し、保護者様同士の交流の機会を設けます。			移行支援	相談支援事業所と連携を取りながら、児童発達支援から放デイへの移行、小学校から中学校への移行に伴った移行支援を考えていきます。また、移行先との連携も密に行い、フォローアップを行っていきます。	
地域支援・地域連携		園、病院、他施設等の利用者様を取り巻く全ての場所との連携を行います。施設だけの見方ではなく、多面的・多角的な情報共有を行い支援につなげていきます。			職員の質の向上	定期的な研修を実施します。	
主な行事等		保護者会・社会見学					